

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2 年 2 月 26 日

事業所名：スパーク運動療育西京極スタジオ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別療育を提供している為、療育室は十分なスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		個別療育の為、お子さま1名に対し職員1名以上を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		目の前は公園で開放的で緑豊かな環境です。毎日の清掃を徹底しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			新年度を機に、更に徹底していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回初めて評価を受けました。結果を受け、取り組める事案から即取り組みを行い業務改善につなげています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			2月配布のご案内で事前に周知し、ホームページで公開しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修は積極的に参加し、社内会議で報告し、職員間の共有を図っています。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		様々な専門職のアプローチを踏まえ客観的に分析し、支援計画を作成をしています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		スパーク協会独自のアセスメントシートを使用し、発達段階や特性(個性)傾向等を分析・確認しています。	

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		療育の都度、課題や目標を職員で確認・共有し、計画を踏まえた支援を行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			次年度は目の前の公園等、屋外での「フィールドスパーク」も定期的の実施予定です。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		スパークは豊かな遊び場という設定で、同じ時間に最大3名の個別療育を行っています。空間をシェアすることで自然発生的に2名又は3名の小集団療育が生まれる場合も多く、発達段階に応じ適宜組み合わせる支援計画を作成しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録の書き方マニュアルを作成、誰もが同じ水準で客観的に記録記入が出来るよう、研修も行っていきます。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		最低6か月に一度、必要があれば都度見直しの必要性を判断しています。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的には管理者が参画しています。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現時点で該当者はおられませんが、今後必要に応じて連携を図っていきます。	
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○			

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		次年度より、ご要望のある保護者のニーズに応えられるよう、情報共有や相互理解等を図っていく予定です。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		通所されているお子さんが併用している事業所とも連携を図っています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			
	29	(自立支援)協議会児童部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		今後、圏域の子育て会議当へも積極的に参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者同伴の個別療育のため、毎回保護者と連携を図り、必要に応じて随時面接も設定しています。その他、お電話やメール、ラインでの相談等も行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士の連携を希望されない保護者に関しては今まで通り個別で、連携を希望される保護者向けには、次年度より保護者セミナー等の機会を確保すべく予定しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご利用される方全員にかかわる申し入れ等については、都度ホームページや待合室の掲示等で対応しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月の予定表に掲載の他、ホームページにて周知しています。	

非常時等の対応	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○				
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			定休日に不定期に障がいサークル等に開放しています。地域に向けた活動については、今後の検討課題といたします。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○			マニュアルの周知が保護者に不十分なため、今後検討していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				想定される災害を検証し、今後は定期的に訓練を行っていきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○				
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		アレルギーについては契約時に記入して頂いていますが、事業所で食事やおやつを提供はありません。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			毎回の会議にて報告、改善策等を話し合い、全職員で共有しています。		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○					
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○				

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。